

## ● 盛土の理由

本計画は造成工事を極力低減することを目指しているが、防災調整池・管理用道路等の建設により発生する土砂を区域内処理とした。

湿原の保全等を考慮し、現在の盛土箇所である谷部に計画を行った。

豪雨時の安定性については、適切な排水設計によって盛土に影響を及ぼさない計画としている。

排水設計の条件は「森林法に基づく林地開発許可申請の手引き」(長野県森林森づくり課)による。

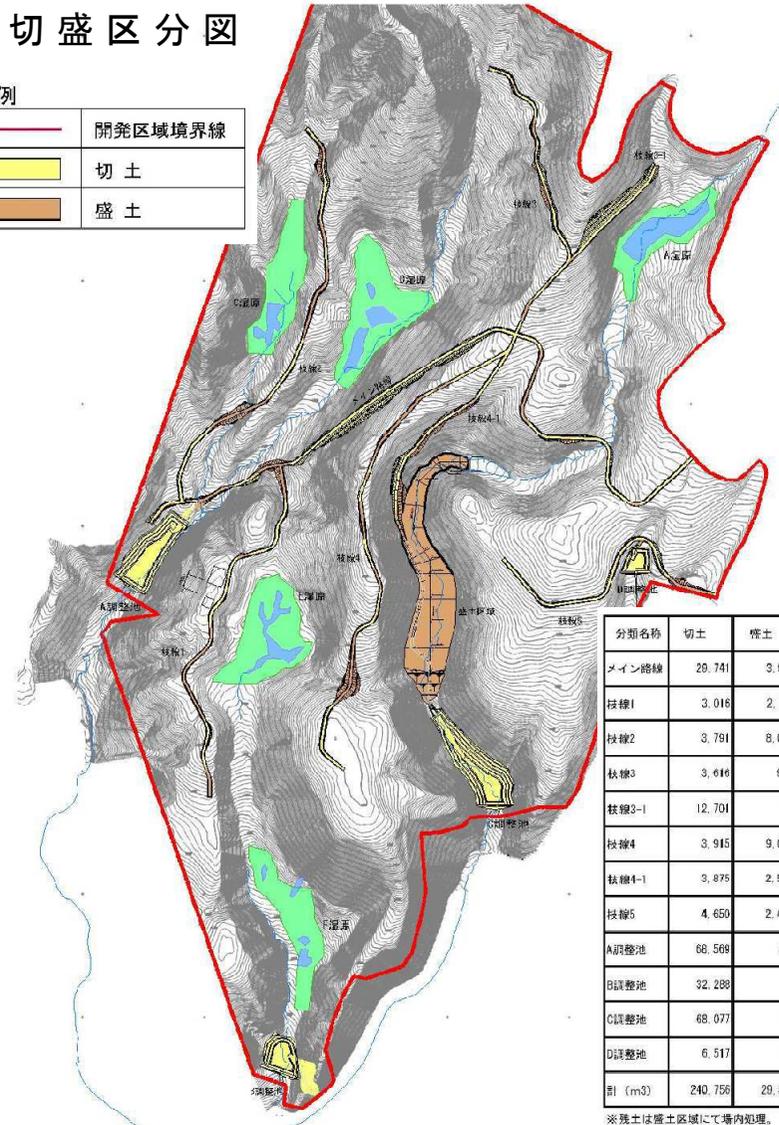
### 降雨強度

- ・表面排水 1/10年確率
- ・防災調整池 1/50年確率

切盛区分図

凡例

	開発区域境界線
	切土
	盛土



分類名称	切土	盛土	残土	備考
メイン路線	29,741	3,898	25,743	枝線4へ-5,125
枝線1	3,018	2,125	891	
枝線2	3,791	8,055	-4,264	A調整池より4,264
枝線3	3,616	931	2,685	
枝線3-1	12,701	58	12,643	
枝線4	3,915	9,040	-5,125	メイン路線より5,125
枝線4-1	3,875	2,517	1,358	
枝線5	4,650	2,425	2,225	
A調整池	68,568	327	68,242	枝線2へ-4,264
B調整池	32,288	6	32,282	
C調整池	68,077	13	68,064	
D調整池	6,517	19	6,498	
計 (m <sup>3</sup> )	240,756	29,514	211,242	

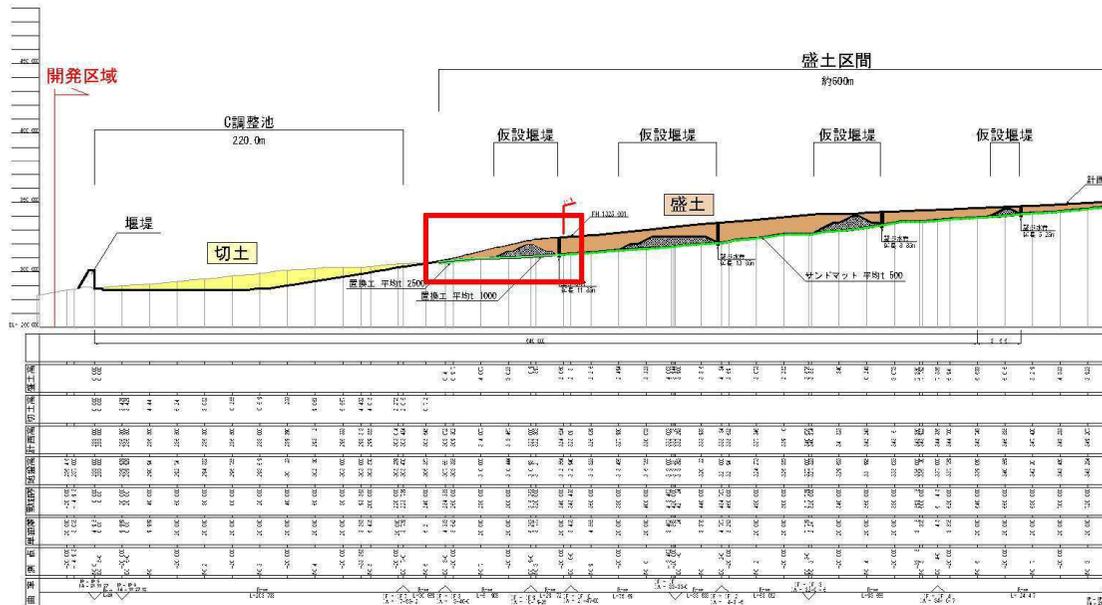
※残土は盛土区域にて場内処理。  
※調整池は取付道路を含む。

# 盛土について (2)

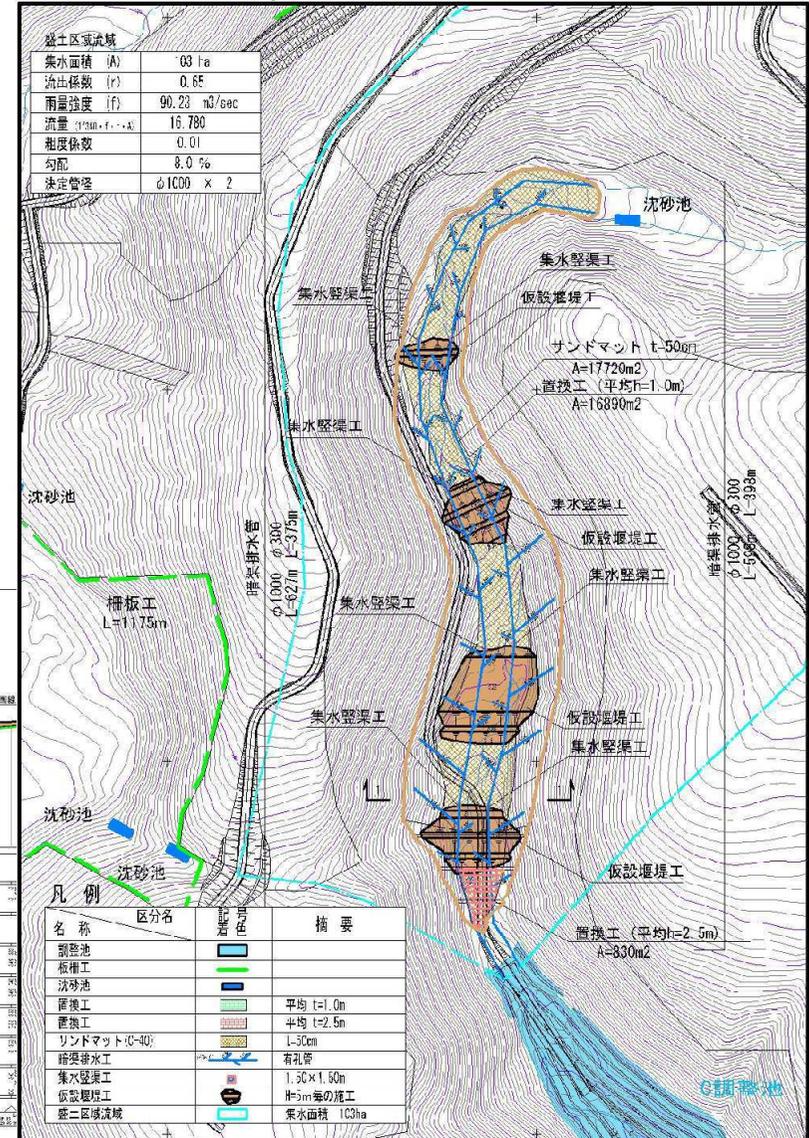
## ● 盛土計画

- ・現況測量、地質調査をおこない現地を詳細に把握した。
- ・施工時の防災計画や盛土法面の安定計算を行い、安全な盛土を計画した。

盛土区間縦断面図



防災計画平面図

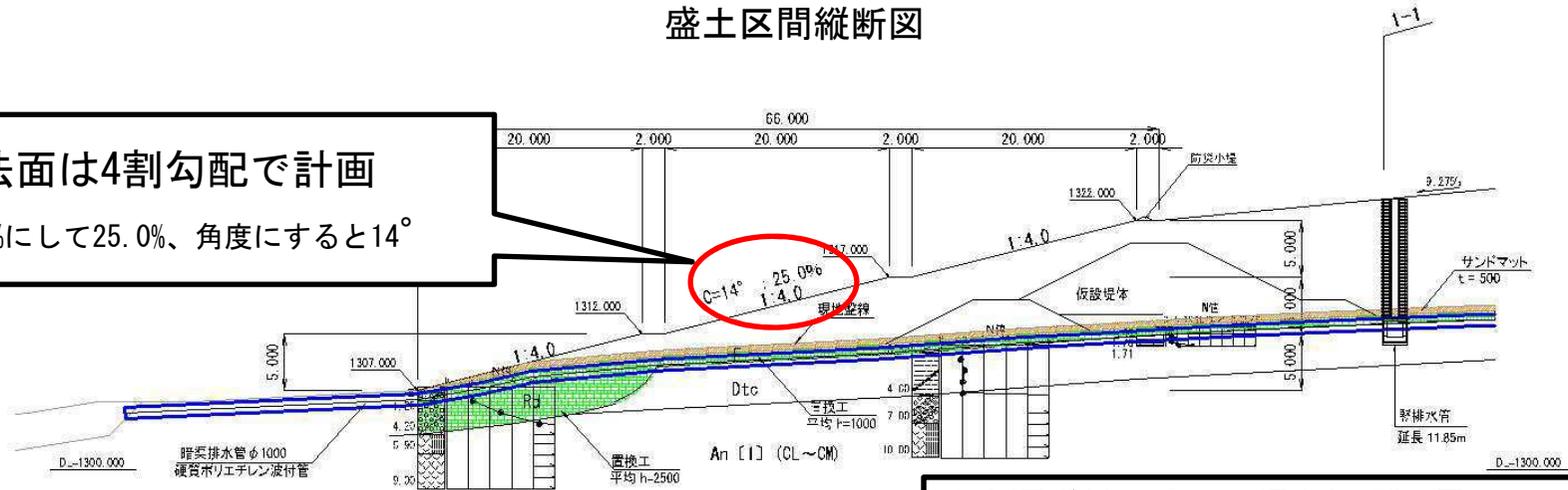


# 参考資料.1

盛土区間縦断面図

盛土法面は4割勾配で計画

※4割は%にして25.0%、角度にすると14°



表土(黒ボク)・一部玉石混じり砂礫の置換工を検討  
(緑色部)

排水計算結果により

盛土完了後は、盛土上面に開渠を計画。

横断面図

1-1

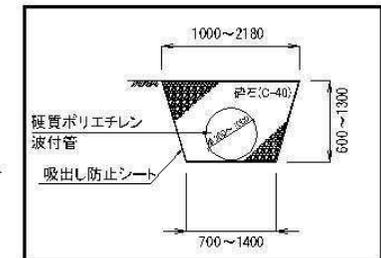
現況約30°

暗渠排水φ300  
縦貫ポリエチレン波付管

暗渠排水φ1000  
縦貫ポリエチレン波付管

暗渠排水φ300  
縦貫ポリエチレン波付管

暗渠排水φ300  
縦貫ポリエチレン波付管



施工中のメイン排水は暗渠φ1.0mを2本計画。

完了後は地下湧水対策として存置。

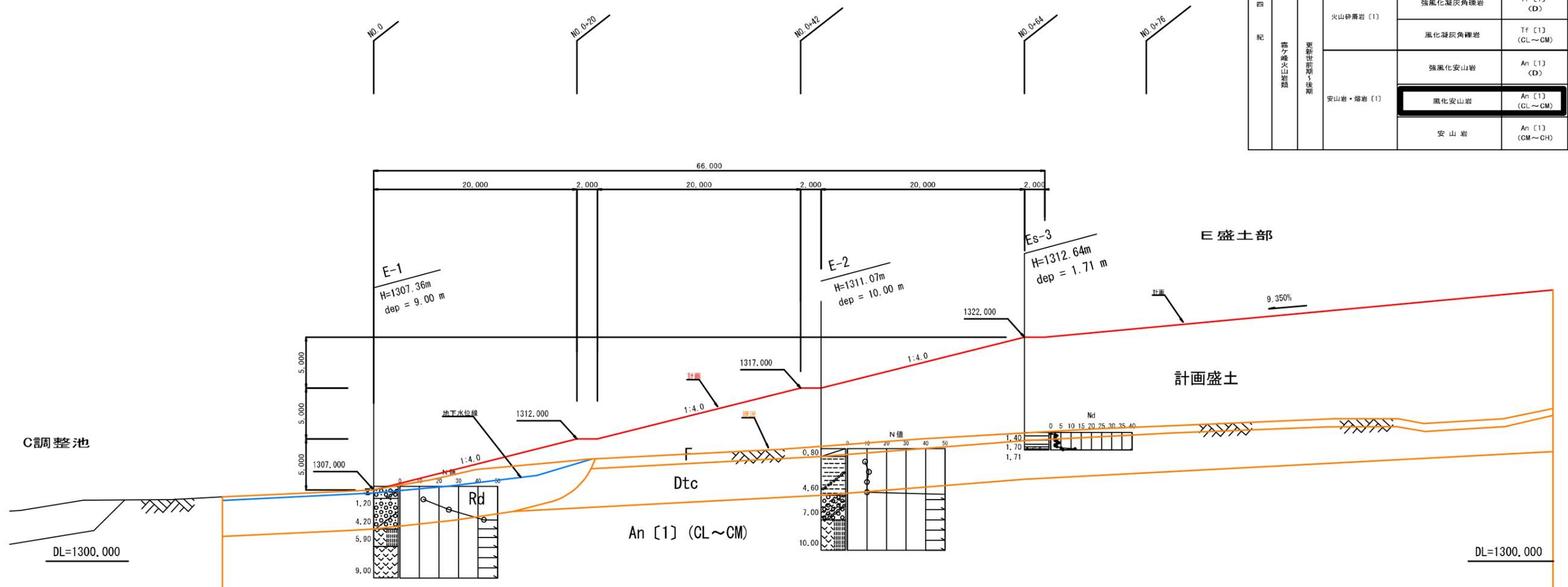
# 参考資料.2

E造成盛土部断面図  
S=1:200 (A1)

盛土の法面安定計算の結果、安全率Fs = 2.14を確保

地質層序表

時代	地層名	土質・地質区分	地層記号
新 世	表土	黒ボク	F
	河床堆積物	玉石混じり砂礫 粘土混じり砂礫	Rd
	崖錐性堆積物	礫混じり粘性土 火山灰質粘性土 玉石混じり砂礫	Dtc~Dtg
第 四 紀	霧ヶ峰火山岩類	火山砕屑岩 [1]	Tf [1] (D)
		風化凝灰角礫岩	Tf [1] (CL~CM)
	安山岩・熔岩 [1]	強風化安山岩	An [1] (D)
		風化安山岩	An [1] (CL~CM)
	安山岩	An [1] (CM~CH)	



土質定数一覧

**Rd**

地質調査報告書H27-10P71より  
玉石混じり砂礫 (Rd)  
土質定数  
C = 0KN/m2  
φ = 0°  
γ = 19.0KN/m3

**F**

地質調査報告書H27-10P71より  
表土 (黒ボク) (F)  
土質定数  
C = 0KN/m2  
φ = 0°  
γ = 14.0KN/m3

**Dtc**

地質調査報告書H27-10P71より  
礫混じり粘性土 (Dtc)  
土質定数  
C = 46KN/m2  
φ = 10°  
γ = 16.0KN/m3

**An [1] (CL~CM)**

地質調査報告書H27-10P71より  
風化安山岩 (An [1] (CL~CM))  
土質定数  
C = 162KN/m2  
φ = 35°  
γ = 21.0KN/m3

**計画盛土**

地質調査報告書H27-10P71より  
計画盛土  
土質定数  
C = 23KN/m2  
φ = 5°  
γ = 13.0KN/m3

# 参考資料.2

- 盛土の法面安定計算の結果、安全率  $F_s=2.14$ を確保

